

平成 27 年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

研究題目：戦後二代目ラジオ体操の動画による記録作成

研究者氏名：○古川幸子（デンマーク体操クラブ・アンセル）、三浦玲子（芝浦工業大学）

鈴木由起子（モダントレーニング研究会）、三宅良輔（日本体育大学）

学会コード：204(歴史・昭和)、1209(その他の研究・その他)

報告

1. 目的

最近メディア等で二代目ラジオ体操第3が「幻のラジオ体操第3」と称し、幾度か取り上げられているが、これらで紹介されている動きは解説書を頼りに独自の解釈により再現されているものである。

そこで、本プロジェクトでは、歴史的な体操の一端である二

代目ラジオ体操をなるべく正確に残すために、当時指導者として実際に二代目ラジオ体操を指導されていた上貞良江氏（92歳）の監修・協力のもと、二代目ラジオ体操第1、第2、第3の動きを正確に再現し、動画データとして記録に残すことを目的とした。

2. 概要

二代目ラジオ体操の再現に向けて、現存する図解資料より二代目ラジオ体操第1、第2、第3それぞれの動きの再現を試みた。楽曲は当時使用されていたピアノバージョンを上貞氏から提供していただいた。これは動きによりテンポを変えて演奏されている。第1から第3までの体操を当時の指導者である上貞氏の指導のもと正確な動きとして再現した。上貞氏は当時の様子を大変鮮明に記憶され、指導はとても細かい手足の動きや運動の表現部分まで注意が注がれた。その後、二代目ラジオ体操第1、第2、第3を動画資料として記録するために、ビデオカメラに収録し、動画データを作成した。また、上貞氏へのインタビュー調査により、当時の時代背景や二代目ラジオ体操の創作過程、苦勞された点などを明らかにした。

3. 成果

ラジオ体操はこれまで3度制作されている。現在行われているラジオ体操は三代目であり、1951年に制定されてから国民に広く実施され続けている。初代ラジオ体操は1928年から1946年まで18年間実施された。これに変わって終戦直後の1946年からわずか1年半だけ放送されたのが二代目ラジオ体操である。当時の状況は戦後の動乱期だったこともあり、普及せずに1947年に放送が中止された。二代目ラジオ体操は第1、第2、第3の3部構成であったが、現在はその音源と解説書のみが残されているだけでほとんど記録が残っておらず、「幻のラジオ体操」とも呼ばれている。この二代目ラジオ体操を、少ない資料の中、当時の指導者から直接指導を受け細部に至るまで正確に再現すること

ができたことは、体操界のみならず、近代体育史の分野にとっても大きな成果であったと考える。

また、上貞氏へのインタビューにより新たな事実も明らかになった。GHQの支配下にあった戦

後の情勢において、二代目ラジオ体操は「号令なしで、自発的に」「女性が優しい声で指導し、ダンス的な動きで」と軍事的な色を無くし民主主義的なラジオ体操という基本コンセプトで作成されたことにより、動きが難しく、ラジオでは説明しきれずに国民に受け入れられなかったとの報告がある（「ラジオ体操の全て」：日本郵政公社制定）。しかし、これらの理由よりも、戦後という状況下にて、普及員を育成し全国に普及させるだけの準備が整わなかったこと、当時の日本国民らが生きることだけに精一杯であり、皆で集って体操などおこなっている状況ではなかったことなどが、二代目ラジオ体操を普及できなかった大きな原因だったと新たな一面を知ることができた。

4. まとめ

今回の二代目ラジオ体操再現の実施により、我々が抱いていた力強く堅いイメージでの動きではなく、柔らかく、流れのある動きを求められたことに驚いた。楽曲は現在販売されているオーケストラバージョンよりテンポがゆっくりで、動きにより速さが変わり大変動きやすかった。更には上貞先生より当時の指導を受けてみると、拍の長さを十分に使って次の動きに繋げていく動き方の指導であった。これらのことから、当時の指導者らが二代目ラジオ体操を戦後の軍事的な色を無くした体操として普及に努めていたと実感した。体操解説書と体操実施のための声掛け（ナレーション）については引き続き検討し今後の課題としたい。

楽曲(ピアノバージョン)提供及び

二代目ラジオ体操監修

協力者

撮影・編集

上貞 良江氏

山川 純氏

古川 千春氏



1. 二代目ラジオ体操の図解



2. 体操の復刻作業と指導の様子



3. プロジェクトメンバー

前左 上貞良江氏

前右 山川 純氏